



2月10日に、令和4年度の市の予算案概要を、市議会や報道機関に説明しました。2年もの間、コロナ対策の経費で、国も地方も予算が膨張し、収支は著しい不均衡の状態にあります。財政規律の考え方に「入るを

計って、出するを制す」という表現がよく使われます。税収入を基本として、収支の均衡を考えるとという意味です。しかし、実際は税に加えて国からの補助金、交付金、また、借金を含めて収入を見込むため、財政規律の維持が緩くなります。

国は借金をして、多額の補助金や交付金を地方に支出しますが、これも元は国民の借金です。コロナ対策のように一時的に多額の予算を確保することはやむを得ませんが、常態的に収支不均衡を続けることは、将来世代のために避けなければなりません。

たくさん要望や課題がある中で、当面のこと、将来のことをいろいろと考え、迷いながら予算編成を行いました。そしてまとめた今年の予算案を「新時代活力創出予算」と名付けました。コロナで苦しめられている今を乗り切り、安心して暮らせる元気な渋川市を創りたいという思いを込めています。

予算は、お金の見積りであり計画です。どういう予算を編成したかよりも、生きたお金をどう使うかが大事です。市民の皆さんからお預かりしている大切なお金を無駄遣いせず、賢く使ってください。



▶報道機関に予算案を説明しました